佐久市教育大綱（素案）に対する意見募集の実施結果

１　意見募集の概要

案件のタイトル	佐久市教育大綱（素案）
募集期間	令和８年８月１０日（月）から令和８年９月９日（水）まで
案件の公表方法	・佐久市ホームページへの掲載 ・佐久市役所本庁市民ホール、企画課、各支所総務税務係窓口に閲覧用として設置
募集方法	郵送・電子メール・ファックス・Googleフォーム・直接持参（企画課窓口）

２　意見募集の結果

提出者数	３名
提出件数	３件

佐久市教育大綱（素案）に対して提出された意見の概要とそれに対する市の考え方については、下表のとおりです。

意見の要旨	市の考え方
海外富裕層向けの高級、高度教育を受けられる学校を創立して税収を上げそれに伴う知名度アップと移住増大を進めてはどうか？現行の公立学校では海外交流を増やし、租税教育も行い将来の経営者育成に力を注いで欲しい。税収アップが実現した際には給付型奨学金の枠組みを増やして欲しい。	現在策定を進めている第三次佐久市総合計画及び佐久市教育大綱におきましても、「特徴ある公教育」を始めとする学びの充実を掲げております。 ご提案をいただきました高度教育を受けられる学校の創立、公立学校による海外交流や租税教育の実施、給付型奨学金の枠組み増加などにつきましても、貴重なご意見として賜り、今後の参考とさせていただきます。
佐久市教育大綱（素案）について、以下のとおり意見を提出いたします。 ◉該当箇所 「3 基本理念・目指す姿」内 「目指すこども像」（文言：『自ら感じ、考え、夢や希望をもって、ともに可能性をひらくこども』および説明文） ◉意見の要旨 「目指すこども像」における「ともに」という表現について、一人ひとりの個性や発達上の特性（コミュニケーションの難しさや集団行動への適応度合い等）に配慮し、必ずしも他者との関わりや集団活動を前提とせずとも、個々のペースで自身の可能性を伸ばせる包括的な表現・解釈を求めていただきたいです。 ◉理由・背景 素案の説明文では「様々な考えをもつ仲間とともに学び合うこと」に重点が置かれています。 しかし、子どもの中にはコミュニケーションに強い課題や発達上の特性を持つ子、あるいは静かで独立した環境でこそ主体性や意欲を発揮できる子も多く存在します。 「ともに」という表現が強調され過ぎることで、集団での関わりが難しかったり一人で学ぶことを好む子どもやその保護者が、「自分（我が子）は目指す姿に当てはまらないのではないか」と疎外感を感じたり、無理な集団適応を求められるのではないかという懸念が生じます。 教育大綱が「誰一人取り残さない教育」やインクルーシブ教育の推進を目指すのであれば、集団での「学び合い」だけでなく、一人ひとりの探究心や自己肯定感を個別最適に保障する姿勢も明確に示す必	ご意見をいただきましたとおり、コミュニケーションに強い課題や発達上の特性を持ち、独立した環境で主体性や意欲を発揮できるこどもが、「ともに」という言葉に、自身が当てはまらないという疎外感を感じたり、無理な集団適応を求められるのではないか、という懸念につきましてはご心配される部分であるかと思われます。 本教育大綱における「ともに」の意味につきましては、一人ひとりの個性や多様性を互いに尊重し、支え合うという観点から、単に「一緒に」ということではなく、「協働」という意味を込め、本教育大綱における重要なキーワードとして、基本理念及び目指す姿に組み込んでおります。 また、目指すこども像における趣旨としまして、一人ひとりが豊かな体験の中で感じた興味・関心や疑問について自ら考え、学びを深める主体的な学びを起点とし、さらに個の学びだけに留まらず、様々な考えを持つ仲間とともに学び合うことで、一人では気づかなかった視点に気づき、多様な考えを持つ他者との関わりの中で、自身の学びをさらに深め、自らの可能性をひらいてほしいという思いを込めています。 ご提案をいただきました、目指すこども像の見直し、及び「ともに」の解説案につきましては、本教育大綱においても大切な考えとして基本理念、目指すこども像に包含されているものと考えておりますことから、今回ご提案いただいた見直しや説明文の追記は行わずに原案のままとさせていただきますが、教育大綱の「ともに」に込めた思いや今回いただきましたご意見につきましては、現場担当となる部署にも引き継いでまいります。

意見の要旨	市の考え方
要があると考えます。 ◉具体的な修正案・配慮事項の提案 【案１：文言そのものの見直し案】 「自ら感じ、考え、夢や希望をもって、自らの、そしてともに可能性をひらくこども」 （※個の可能性の開花を基本としつつ、他者との関わりも包含する表現とする） 【案２：説明文への追記・解説案】 　標語自体を変更しない場合でも、説明文の末尾等に以下の補足内容を明記していただきたいです。 ※「ともに」とは、必ずしも一律の集団活動や直接的な他者との交流のみを指すものではありません。多様な特性や個性を認め合い、それぞれのペースや方法で自らの可能性を伸ばしていける環境を含みます。 　以上よろしくお願いいたします。	
Ｐ２　策定の趣旨 　「深刻化する人手不足の克服のため」という表現は削除したほうがよいのではないでしょうか。 　そこに続く「多様な人材が力を発揮出来る環境整備」「子どもが夢や希望、地域への愛着を持てる学び」を実現する目的は「人手不足克服のため」ではなく、まさに「１人１人のウェルビーイングの実現のため」だと考えるためです。	ご指摘のとおり、多様な人材が力を発揮できる環境整備や、こどもが夢や希望、地域への愛着を持てる学びの充実は、人手不足の克服のみを目的としたものではないことから、ご意見の内容を参考とさせていただき、策定の趣旨を修正いたしました。

（意見を受けて修正した部分がある場合は、以下を掲載）
　いただいたご意見に基づいて、下記のとおり修正しました。

修正箇所	修正前	修正後	修正理由
２ページ　７行目	また、深刻化する人手不足の克服のため、多様な個性をもつ人材が持てる能力を最大限に発揮できる環境整備や、次代を担うこどもたちが夢や希望、地域への愛着をもつことができる学びの充実が必要となります。	また、誰一人取り残さない、持続可能で魅力あふれる地域の未来を切りひらくため、多様な個性を持つ人材が持てる能力を最大限に発揮できる環境整備や、次代を担うこどもたちが夢や希望、地域への愛着を持つことができる学びの充実が必要となります。	適切な表現への変更